

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	発達サポート beingb (児童発達支援)		公表日 2026年 3月 2日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%		・玩具、教具等が子どもに見えやすいように配置するように心がけている。子どもが遊びたいもので遊べるように急遽準備することもある。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100%		・セッション終了後、児発管を交えて振り返りを行っている。次の課題が見つかりやすく周知もしやすい。 ・月1回の定例会、アンケートなどを利用して計画から改善までいつでも繋ぐことができる。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		・意見箱の活用や朝礼、定例会などで話し合いや対応について話されている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	86%	14%		・第三者評価機関による評価はないが、理事や有識者等による評価、助言を受けている。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%		・研修参加が奨励され、法人内研修もある。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%		・日々の業務でまだ目を通していない。支援プログラムが作成されていることは理解している。	・職員が事業所のことに関心を持てるように工夫が必要であり、課題だと感じる。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	100%			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%		・児発管や心理専門職と情報共有をしている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%		・セッションクラスリーダーがサブと打ち合わせ情報共有に努め、セッションの流れを確認している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%		・プログラムの立案はクラスリーダーが行うが、振り返りをチームで行い、児発管にも相談できる。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%			・声掛けや別の玩具等の使用を提案し、遊びが広がるように努めている。		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	100%					
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%					
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	86%	14%			・毎回、振り返りを行って次につなげている。 ・必ず、と聞かれると迷うが、時間が取れない時は、その日の様子も伝えている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%					
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	86%	14%				
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%					
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%					
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%				・窓口となっている3役が対応している。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	86%	14%				
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。						
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。						
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。						
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	100%					
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	86%	14%				
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	86%	14%				
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%	100%					
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%					
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%					

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100%			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	100%			
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	100%			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%			
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	100%			
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	86%	14%	・マニュアルがあり、HPに掲載されている。 ・訓練の実施をしているのかは分かりません。	・入職間もない職員にも危機管理のためのマニュアルや訓練の実施等について知る機会を設けたい。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	86%	14%		・入職間もない職員にも危機管理のためのマニュアルや訓練の実施等について知る機会を設けたい。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	71%	29%	・服薬の内容等を把握していないことがあります。確認したいと思います。	・初回担当者会議で情報を得るようにしている。事業所で服薬を管理するようなケースはない。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%		・食物アレルギーがある児童の把握はしている。	・初回担当者会議で情報を得ている。保護者から医師からの指示書などを預かったことはない。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%			
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%			
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	100%				

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	発達サポート being (放課後等デイサービス)				公表日	2026年 3月 2日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	86%	14%		スタッフの有休が重なり、少ないスタッフで支援せざるを得ない状況はあるが、構造化によりどうにか対応している時がある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%		・生活しやすい構造化がなされている。 環境を構成を変更するためのパーテーションなどが多く用意されているので、調整しやすい。 ・遊び道具の配置に気を付けています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	86%	14%	個別の療育室には、その療育室を使用する、子どもの好きな物、落ち着ける物を用意して安心して過ごせるようにしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	71%	29%		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	86%	14%		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	86%	14%	・相互理解や信頼関係を構築すること意味で時間を設けている。 ・意見箱、朝礼、定例会で検討しています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	43%	57%	通所の事業所の第三者評価は義務づけられていませんので実施してはませんが、理事会等の指導により適切な運営を心がけています。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	86%	14%	事業所内研修を多く取り入れており、資質の向上を図っている。	事業所内研修を毎年計画しています。他機関主催の研修参加も奨励していますが、研修に時間を割ける職員は限られています。日々の業務を通して専門性を磨くことができるような発達支援を実現できるように全スタッフが努力をしているところです。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%		支援プログラムに加えて、その意図ややり方等も伝えられている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100%			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	86%	14%		スタッフの意識の個人差が大きい。個人の意識化がさらに必要。

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%		プログラムをチームで共有することで環境設定等トラブルなく進めることができている。	
	18	活動プログラムには配慮や工夫があるか。	100%		利用児に合わせて行うプログラムや時間の検討をチームで行っている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100%			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	71%	29%		<ul style="list-style-type: none"> その日のうちに振り返りはできないが数日後または定例会で情報共有している。 必要に応じて、相談できるように専門職や児発管との連携体制がある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	86%	14%		<ul style="list-style-type: none"> 記録していますが、支援の検証や改善は個人レベルになっていることもあります。 業務の簡略化、効率化を進め、時間を捻出していくことが課題です。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	86%	14%		計画的に事業所内モニタリングを実施できるように体制の構築をします。
関係機関や保護者との連携	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	71%	29%		<ul style="list-style-type: none"> 意識が低い。 ガイドラインの理解はスタッフ間に大きなバラツキがあります。しかし、理念や方針、内容の理解はガイドラインに添っていますので実践に大きなズレはないと考えます。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100%		支援内容や選択肢が複数用意されていて自己決定をする機会がいつも与えられている。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	86%	14%		<ul style="list-style-type: none"> 保健や医療との連携は、地域に連携のシステムが整備されていません。必要がありこちらから連絡を取っても、迷惑がられることもあります。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	86%	14%		下校時刻の確認や送迎に関することは、保護者にも協力して頂き、連携を確実にできるように特に留意します。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	100%			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	100%			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	86%	14%		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	100%			
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	71%	29%		

保護者への説明等	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%			
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100%			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	100%			
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%			
44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%				
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	100%		恒例のピクニックコンサートに加え、地域交流イベントを年に複数回行っている。		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	86%	14%		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	86%	14%		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	71%	29%		予防接種の確認をする機会はありませんが通所施設では特別な場合を除いて必要ないと考えます。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%		保護者経由で医療機関の指示書等を頂き説明を受けることが多いです。医療機関から直接指示書を頂くことはありません。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%			

54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	100%			
----	--	------	--	--	--

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	発達サポート being (保育所等訪問支援)					公表日	2026年 3 月 2日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと 思われる点など	課題や改善すべき点	
環 境 制 ・ 整 運 備 ・ 営	1	訪問支援に使用する場合の教具教材は適切であるか。	100%			・訪問支援だけを利用しているお子様に対しては、提供できる教材に限られるので、目的を踏まえて教材を吟味して提供したい。	
	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%				
業 務 改 善	3	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100%				
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%				
	5	従業員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%				
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	67%	33%		・第三者評価機関による評価は受けていないが、有識者のスーパーバイズを受けてより適切な訪問支援を心がけている。	
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%				
適 切 な 支 援 の 提 供	8	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	100%			・必要に応じてフォーマルアセスメントとインフォーマルアセスメントを用いて適切に発達を評価するように努めている。	
	9	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%				
	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	100%				
	11	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%				
	12	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%			・必要に応じてフォーマルアセスメントとインフォーマルアセスメントを用いて適切に発達を評価するように努めている。	
	13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	100%				
	14	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%				
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%				
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%				
	17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	100%			・訪問先の保育理念や内容、方法を知り尊重するように心がけている。	
18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	100%					

	19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%			
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%			・児発管、訪問担当、心理専門職等が出席している。
	21	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%			・本事業所は体制を備えているが、重篤な事例を除き、地域の体制整備は十分であるとは言えない。
	22	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	67%	33%		・就学支援は教育機関のみで体制整備がなされているため、福祉が参入することは稀である。就学前、就学後の担当者会議では学校生活に有益となる情報を提供できるように努めている。
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	100%			
	24	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	67%	33%		・地域の療育研究会に参加している。
	25	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	67%	33%		・保育所等訪問支援のみをご利用の保護者様ともお会いする機会を設けたい。
	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%			
	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%			
保護者等への説明等	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	100%			・説明不足も懸念されるため、初回担当者会議でも必ず説明をするようにしたい。
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%			
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	100%			
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	100%			
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	100%			
	33	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%			
	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%			
	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%			
	36	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%			
	訪問先	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	100%		
38		保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	67%	33%		

施設への説明等	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	100%			
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%			
	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	100%			
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%			・本事業所にもマニュアルはあるが、基本的には訪問先の体制に従うようしている。
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%			
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%			
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%			
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	100%			